

第 1 分 科 会

短期大学図書館の自己点検・評価内容の比較研究
——レファレンス記録を使って職員の養成に役立てよう！——

運営委員 齊 藤 誠 一 氏
松 尾 昇 治 氏
坂 本 恭 子 氏

第1分科会

「短期大学図書館の自己点検・評価内容の比較研究」

—レファレンス記録を使って、職員の養成に役立てよう！—
ワークショップ

1 レファレンス事例を使った研修事例

- ・近畿大学の実践事例補足（寺尾隆氏の報告補足）・・・5分
- ・調査プロセス比較法の紹介（齊藤誠一氏から紹介）・・・15分

2 ワークショップの内容

(1) はじめに

ア 検討内容（獲得目標）

「自館でできる職員の研修方法を考える」

イ ワークショップの流れ

①自己紹介及び現状報告（30分）→②自館でできる職員の研修方法の検討（90分）→③発表資料の作成（20分）→④発表（60分）→まとめ（10分）

ウ 役割分担の決定

- ①司会者・・・
- ②発表者・・・
- ③記録者・・・
- ④発表資料の作成者・・・

エ 発表内容（この項目は参考にしてください）

- ①タイトル
- ②背景及び現状
- ③研修における獲得目標
- ④具体的な研修方法の提案
- ⑤今後の課題

(2) 自己紹介と現状報告（30分程度）

- ①自己紹介
- ②自館におけるレファレンス・サービスの現状
- ③自館における職員研修体制の現状
- ④レファレンス記録の有無

(3) 自館でできる職員の研修方法の検討

- ①自館での職員研修は可能か
- ②自館で行う職員の養成方法には、どのようなものがあるか
- ③実践事例にあったような研修方法は可能か
- ④レファレンス協同データベースの事例の活用方法は？
- ⑤グループ独自の研修方法（プログラム）の提案

(4) 発表資料の作成

- ・各グループにパワーポイントが入ったパソコンを1台用意します。パワーポイントを使っての発表でも、口頭での発表でもかまいません。

(5) 発表

- ・発表時間は5分、その後質疑応答の時間を5分とります。

(6) まとめ

※ 現状報告、検討、発表資料の作成時間は目安です。各グループの中で配分してください。ただし、二日目の午前11時10分までには、発表ができるようにしてください。

※ 休憩は、各グループの判断で適宜取ってください。

※ グループ分けは、別紙のとおりです。

Aグループ			
No.	氏名 (ふりがな)	短大名	都道府県名
1	角田 理恵子 (かくた りえこ)	千葉敬愛	千葉
2	島田 由美子 (しまだ ゆみこ)	近畿大学 (部)	大阪
3	三原 和俊 (みはら かずとし)	東洋食品工業	兵庫
4	弘藤 敦子 (ひろふじ あつこ)	岩国	山口
5	西 眞知子 (にし まちこ)	鹿児島純心女子	鹿児島

Bグループ			
No.	氏名 (ふりがな)	短大名	都道府県名
6	谷口 豊 (たにぐち ゆたか)	日本体育大学女子	東京
7	神谷 克江 (かみや かつえ)	松本大学松商 (部)	長野
8	内藤 智香子 (ないとう ちかこ)	聖母女学院	京都
9	浦崎 順子 (うらさき じゅんこ)	山陽女子	広島
10	福島 裕子 (ふくしま ゆうこ)	精華女子	福岡

Cグループ			
項番	氏名 (ふりがな)	短大名	都道府県名
11	杉田 美香 (すぎた みか)	文化女子	東京
12	丸谷 知子 (まるたに ともこ)	滋賀	滋賀
13	柴田 章子 (しばた あきこ)	鳥取	鳥取
14	土岐 敦子 (とき あつこ)	今治明德	愛媛

Dグループ			
項番	氏名 (ふりがな)	短大名	都道府県名
15	水野 里永子 (みずの りえこ)	文化女子	東京
16	鳥丸 育代 (とりまる いくよ)	大阪キリスト教	大阪
17	牧尾 裕 (まきお ゆたか)	徳島文理大学 (部)	徳島
18	細江 直子 (ほそえ なおこ)	九州大谷	福岡

Eグループ			
項番	氏名 (ふりがな)	短大名	都道府県名
19	太田 信之 (おおた のぶゆき)	立教女学院	東京
20	諸橋 智香子 (もろはし ちかこ)	東海学院大学 (部)	愛知
21	吉川 佳代 (よしかわ かよ)	奈良文化女子	奈良
22	中井 詠子 (なかい えいこ)	愛媛女子	愛媛

分科会 講演 I

図書館員のレベルアップにつなげよう：レファレンス記録の活用

大阪女学院図書館 坂本恭子

- I. はじめに
- II. レファレンスサービスとは
 - A. 図書館サービスの中では
 1. レファレンスサービスの仕事
 - B. レファレンスの質問のタイプ
 - C. レファレンスサービスの現状
 1. レファレンス件数
 2. 質問内容の変化
- III. 大阪女学院図書館の事例
 - A. レファレンスサービスの現状
 1. 学生の認知度
 2. レファレンス件数
 3. 記録用紙 (別紙 1) (別紙 2) (別紙 3)
 - B. 記録の使い方
 1. 館内での情報の共有
 2. 図書館サービスの見直し
 - a. 蔵書構築
 - b. パスファインダーの作成
 - c. サインの見直し
- IV. レファレンスサービスの記録の必要性
 - A. 館内での情報の共有
 - B. 事例集など
 - C. 図書館の評価
- V. 今後の記録の活用方法
 - A. 他館とネットワークで共有
 - B. レファレンスの質の向上
- VI. まとめ

記録ノート

6/5	J CorU CorU (目録)	「南」(9136/4)の場所 J/D はどこまで NDCの番号と登録番号(769)は 資料のどこまで見ればわかるか?	南 NDC → 5410の巻上 登録番号 → JOIN
6/6	CorU S S S 教 J J S 教 J先生 J	和洋の 引出しの本がない 「オズの魔法使」をJOINで見て、J/Dは? 東洋の本がどのくらいあるか? (和洋) 東洋の本「イノ」で手に入るか? 「イノ」のCDありますか? (和洋) 語に得るか? (和洋)ありますか? 何冊かありますか? 谷川俊太郎の「信じる」という曲のCD 「プロジェク X 13」のDVDがあるか 「TUGUMI」の	文庫本 和洋関係図書コーナー 一冊書架 CD DVD 「あしたのち」
6/8	CorU CorU CorU CorU CorU CorU CorU	展示中の本(裁判権制度)借りかかっていますか? (Libraryの重箱にJoinが収録されている) CDはどのくらい見られますか? CDは何冊借りかかっていますか? リポート期間は何冊借りかかっていますか? 3日間貸出の本はリポート期間に返却する 5冊借りかかっていますか?	はい、と時刻表に 使うので ① 2日間 本/巻上 600冊 2冊 文庫本

参考調査記録表

受付	年 月 日 (口頭・電話・文書・メール) 受付者:		
質問者	在校生 (J・S・C・U 年)	学籍番号 (C・Uのみ)	
	教職員・同窓生・保護者 その他 ()	氏名	
回答期限	年 月 日 () 時		
目的	トピック・研究調査法・ペーパー・プレゼン ディスカッション・その他 ()	担当教官名	
質問要旨	(できるだけ具体的に)		
質問の種類	(1) 大阪女学院図書館利用案内 (2) 調査方法の案内 (文献・資料・ツール) (3) 所蔵・所在調査 (4) 事実調査 (5) その他 (6) 論文レポートの書き方 (7) 書誌事項調査 (8) 文献調査 (9) 他機関の紹介		
【回答】			
【備考】			継続中
	別紙の (有・無)		済み (月 日) 回答者:

*記入された個人情報、目的以外には使用しません。

文献探索(データベース検索)申込み用紙

氏名:	学籍番号:
希望日時: 月 日() 時	
連絡先:	
科目:	担当教員:
テーマ:	
調べたいこと:	
キーワード:	
事前調査 (どこまで調査したか、すでに調べた内容などを記載してください) :	
利用したデータベース ①図書館HP ②JOIN ③NDL-OPAC(図書) ④NDL-OPAC(雑誌) ⑤CiNii ⑥InfoTrac ⑦ Opposing View Points ⑧ EBSCOhost ⑨Webcat Plus ⑩Japan Knowledge ⑪Britannica Online Japan	

文献探索(データベース検索)申込み用紙

氏名:	学籍番号:
希望日時: 月 日() 時	
連絡先:	
科目:	担当教員:
テーマ:	
調べたいこと:	
キーワード:	
事前調査 (どこまで調査したか、すでに調べた内容などを記載してください) :	
利用したデータベース ①図書館HP ②JOIN ③NDL-OPAC(図書) ④NDL-OPAC(雑誌) ⑤CiNii ⑥InfoTrac ⑦ Opposing View Points ⑧ EBSCOhost ⑨Webcat Plus ⑩Japan Knowledge ⑪Britannica Online Japan	

分科会 講演 II

「国立国会図書館レファレンス協同データベース」の概要

国立国会図書館関西館図書館協力課協力ネットワーク係 大貫朋恵

●概要

レファレンス協同データベース事業は、公共図書館、大学図書館、専門図書館等におけるレファレンスに関するデータを蓄積し、インターネットを通じて提供することにより、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動を支援することを目的とする事業です。

平成 21 年 4 月末現在、データベースには、約 43,000 件のデータが蓄積されています。

講演では、事業の概要やシステムの機能に加え、レファレンス協同データベースを利用したスキルアップについて、実際の活用例を交えてご紹介します。

●構成

0.はじめに

1.事業紹介

- ・事業について（概要、経緯）
- ・現況（データ数等）

2.データ紹介

- ・データ種別
- ・公開レベル

3.機能紹介（デモ）

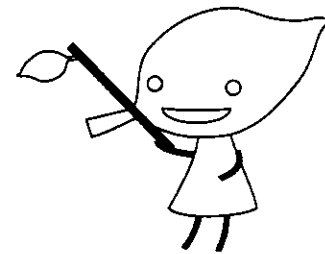
- ・検索機能
- ・登録機能
- ・参加館支援機能

4.活用法紹介

- ・読んでスキルアップ
- ・登録してスキルアップ
- ・コメントしてスキルアップ

5.活用法紹介（応用編）

- ・蓄積してサービス改善
- ・図書館活動の PR にも！



「国立国会図書館レファレンス協同データベース」の概要

2009年7月2日(木)
日本私立短期大学協会 図書館情報担当者研修会
第1分科会講演II

「国立国会図書館
レファレンス協同データベース」の概要

国立国会図書館関西館図書館協力課
大貫朋恵

はじめに

「レファ協」とは？
レファレンスに関するさまざまな情報を館種を越えて蓄積し、利用できる仕組み

→ 「さまざまな情報」とは？
→ 「館種を越えて」とは？

百聞は一見に如かず！▲

【レファレンス事例】

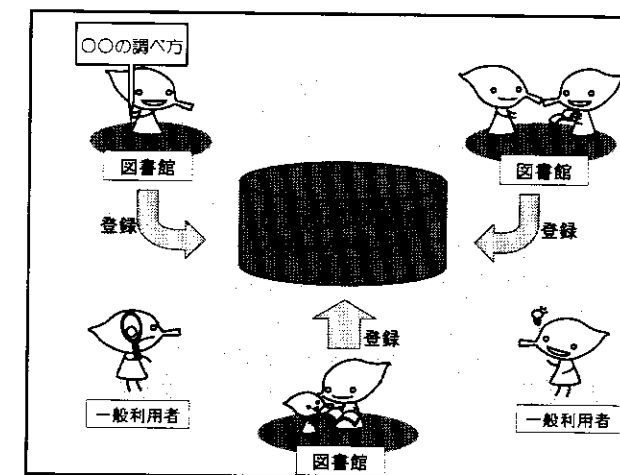
質問
回答

回答プロセス

NDC
参考資料
キーワード

事業紹介

・目的
公共図書館、大学図書館、専門図書館等におけるレファレンスに関するデータを蓄積し、インターネットを通じて提供することにより、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動を支援すること
(事業実施要項より)



事業紹介

・現況(1) -参加館数-

参加館480館(2009年5月末現在)

公共	307館
大学	126館
専門・その他	37館
NDL	10館

事業紹介

現況(2) -データ数-

データ登録総数 43,454件(2009年5月末現在)

レファレンス事例	36,016件
調べ方マニュアル	6,688件
特別コレクション	270件
参加館プロフィール	480件

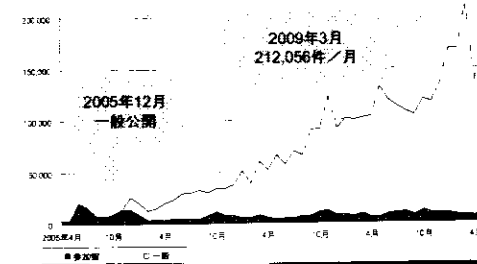
※ 一般公開データ 24,697件(全体の約6割)

7

事業紹介

現況(3) -アクセス数-

2008年度 1,600,422件(月平均 約13万件)



8

データ紹介

データ公開の条件

- ① 個人のプライバシーが尊重されている
- ② 質問者の特定につながる恐れがない
- ③ 差別表現等の点で問題がない

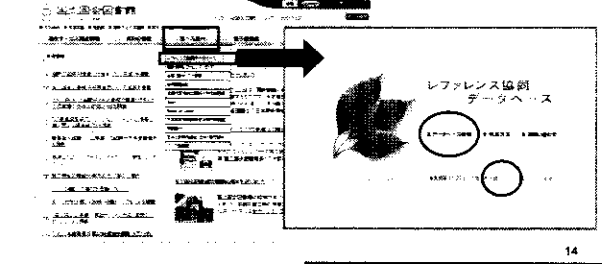
→ これらを満たしていれば、公開可能!

※「データ作成・公開に関するガイドライン」より
<http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guideline.html>

13

機能紹介(デモ)

- ・ 国立国会図書館ホームページ
 > 調べ方案内 > レファレンス協同データベース▲



14

データ紹介

4つのデータ種別

- レファレンス事例
- 調べ方マニュアル
- 特別コレクション
- 参加館プロフィール

9

データ紹介

レファレンス事例

参加館で行われた
レファレンスサービスの記録

調べ方マニュアル

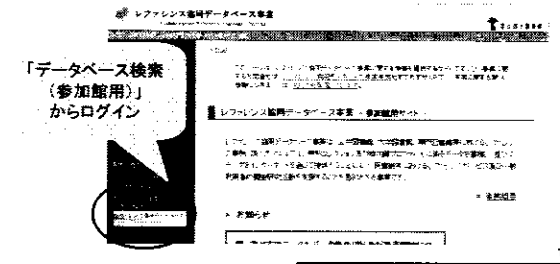
特定のテーマやトピックに関する
情報源の調べ方

10

機能紹介(デモ)

ログイン方法

参加館のページ <http://crd.ndl.go.jp/jp/library/index.html>

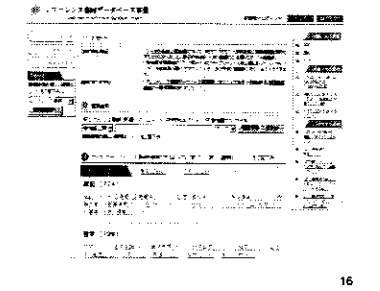


15

機能紹介(デモ)

検索機能

- ・ 簡易検索
- ・ 詳細検索
- ・ ブラウジング



16

データ紹介

特別コレクション

個人文庫や貴重書など、
参加館が所蔵する
特殊なコレクションに関する情報

参加館プロフィール

所在地や利用条件など
参加館に関する情報

11

データ紹介

3段階の公開レベル

- ① 自館のみ参照：自館IDでログイン時にみられる
- ② 参加館公開：参加館にのみ公開
- ③ 一般公開：Web上に制限なく公開

→ 公開レベルは自由に変更可能
=使い分けて活用!

12

機能紹介(デモ)

登録機能

- ・ Web画面から
 1件ずつ
- ・ 一括登録
 (データ作成、
 登録のための
 「支援ツール※」
 を用意)

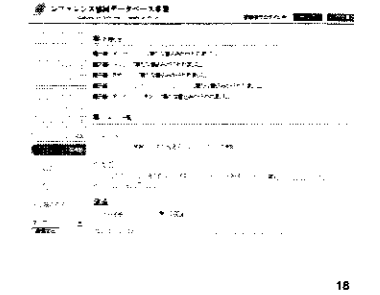
※支援ツール <http://crd.ndl.go.jp/jp/library/tools.html>

17

機能紹介

参加館支援機能

- ・ コメント機能
- ・ 掲示板
- ・ メール通知
 サービス
- ・ 統計機能



18

活用法紹介

・ 3段階のスキルアップ

読む
登録する
コメントする

さらにはその効果も...?

19

活用法紹介

・ 読んでスキルアップ! (1)

まずは (検索トップ画面に表示)

↓

【一般公開用】

- データの記述が充実していて、図書館のレファレンスサービスをPRできるもの
- 一般利用者も興味を引かれる話題を取り上げたもの

「わかりやすいレファレンス記録」の実例を読む

20

参考 活用法紹介(応用編)

・ 蓄積してサービス改善!

蓄積された自館・他館データの傾向を分析

- 自館に不足しているレファレンス資料、ツールはないか?
- 資料はわかりやすい場所に配架されているか?

◆秋田県立図書館 : 「朝レファ」(職員勉強会)
開館前に15分程度の「ミニ研修」を行い、職員が持ち回りでレファ協の事例を紹介

選書、配架場所を検討する材料に

25

参考 活用法紹介(応用編)

・ 図書館活動のPRにも!

利用者教育への応用

- 学生向けのパスファインダーの登録

活動成果として報告

- アクセス数等を報告書としてまとめ、上層部に報告
- ◆吉田秀雄記念事業財団アド・ミュージアム東京広告図書館

学生、教員、経営母体への活動アピールに

26

活用法紹介

・ 読んでスキルアップ! (2)

自館の専門分野に関する
NDC、キーワード による検索

↓

たとえば…

- ・NDC 376(幼児・初等・中等教育)
- ・キーワード「マーケティング」、「包装」など

日々のレファレンス業務に関連する事例を読む

21

活用法紹介

・ 登録してスキルアップ! (1)

「事例作成は である」(*)

↓ (神奈川大学図書館: 中村裕史氏)

囲碁や将棋などの対局後、その内容を再現しながら振り返り、手の善し悪しなどを検討すること

レファレンス記録をつけることによる振り返り、回答に用いた手段・ツールの見直し

※第5回レファレンス協同データベース事業フォーラム 記録集
http://crd.ndl.go.jp/jp/library/documents/forum_h20_report.pdf

22

参考 関連情報

・ レファレンス協同データベース

一般検索画面 <http://crd.ndl.go.jp/public/>
参加館のページ <http://crd.ndl.go.jp/jp/library/>

・ 事業へのご参加について
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/collabo-ref.html>

・ お問い合わせは…
事務局 0774-98-1475(担当直通)
info-crd@ndl.go.jp

27

ご清聴ありがとうございました

28

活用法紹介

・ 登録してスキルアップ! (2)

自館のデータをブラッシュアップ

- レファ協に登録したデータを見直し、
- ◆吉田秀雄記念事業財団アド・ミュージアム東京広告図書館 : ミーティングで自館データを見直し、修正や最新データの追記を行う
- ◆大阪市立中央図書館 : 追加情報をコメントとして付与し、それに基づいてデータを更新

レファレンス知識を担当者全体で共有する
(職員同士、ベテラン→新人へ)

23

活用法紹介

・ コメントしてスキルアップ!

他館の事例へのコメント

- 自館の専門分野、得意分野の事例を検索し、コメントを付ける
- ◆岐阜県図書館 : 郷土に関する事例への参考情報
- 未解決の事例を検索し、コメントを付ける
- ◆近畿大学中央図書館

実際の事例を活用した自己研鑽

24

分科会 講演Ⅱ

「レファレンス協同データベース」を使った職員研修事例

近畿大学中央図書館 レファレンス課 寺尾 隆

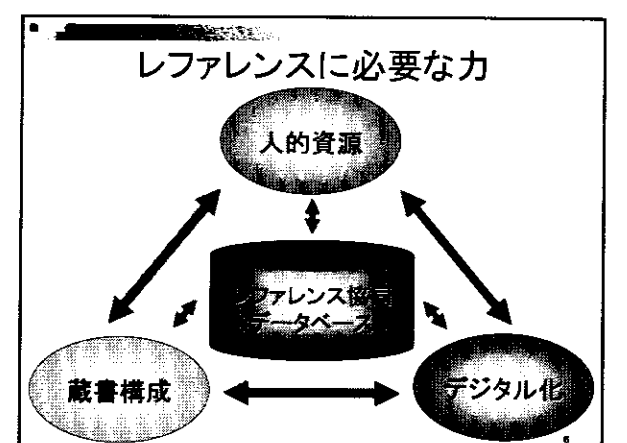
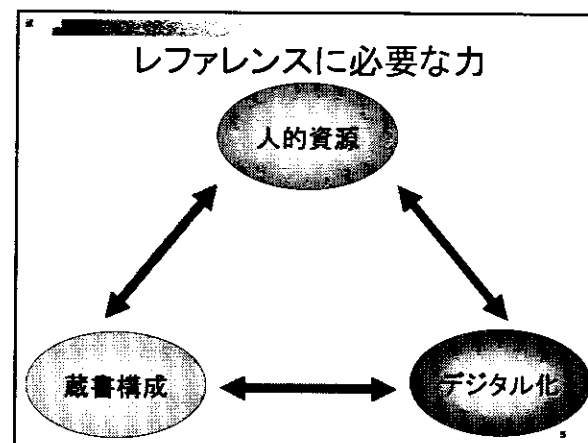
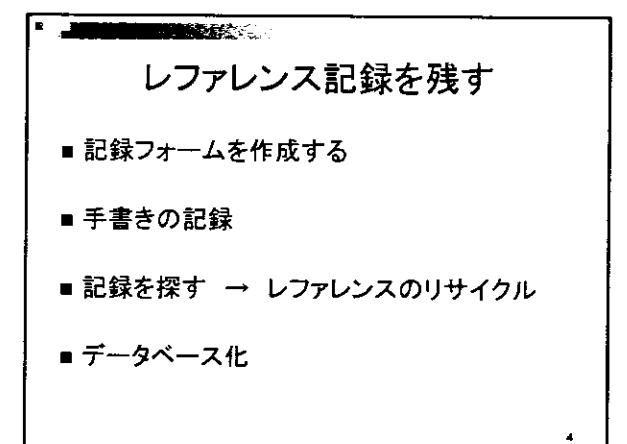
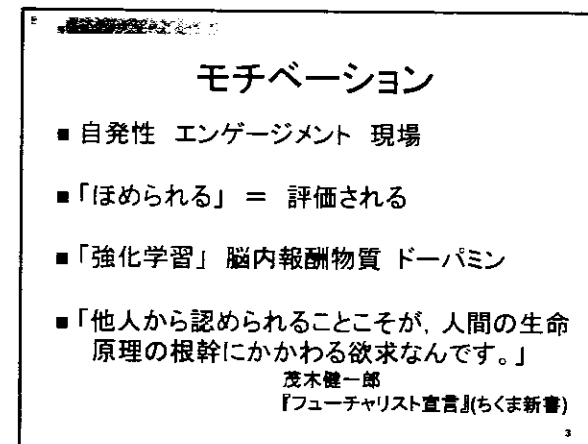
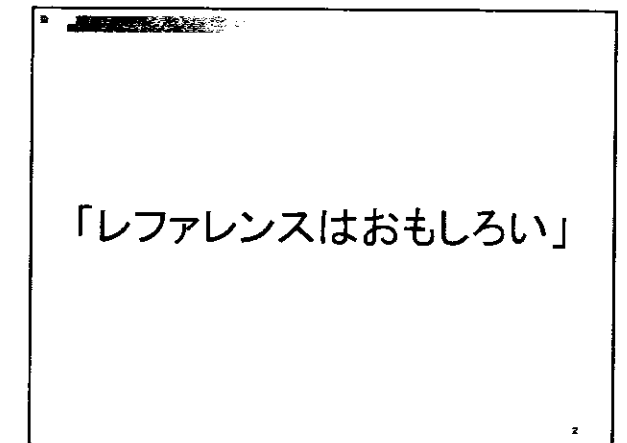
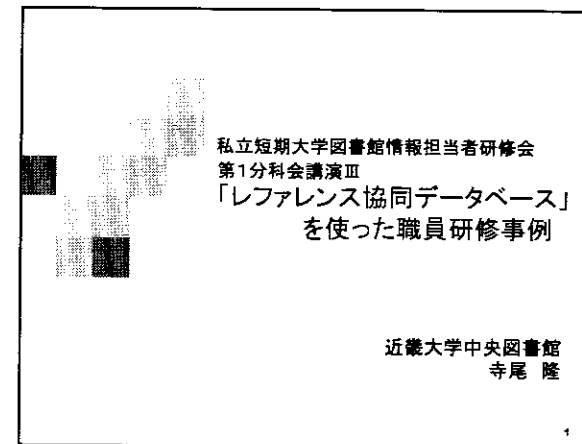
概要

近畿大学中央図書館では、2002年4月以降レファレンスサービスを人材育成のためのOJT(On the Job Training)の一環として位置付け、正規職員と業務委託スタッフとのコラボレーションによるレファレンスサービスを行ってきた。また、2005年1月レファレンス協同データベース事業へ参加し、データ登録、他館への情報提供にも取り組んできた。それらによって生み出されてきた効果について報告を行う。

内容

はじめに 「レファレンスはおもしろい」

1. レファレンス記録を残す
2. レファレンスに必要な力
3. 「レファレンスが人を育てる」
 - ・利用者と図書館員との循環構造
4. 近畿大学中央図書館におけるレファレンス協同データベースへの取り組み
 - ・これまでの歩み
 - ・レファレンスの流れ
 - ・登録事例の選択
 - ・こんなレファレンス事例も
 - ・レファ協を利用したセルフラーニング
 - ・他館未解決レファレンスへの挑戦
 - ・研修としての調べ方マニュアルの作成
5. おわりに 「レファレンスをコア・コンピタンスに」

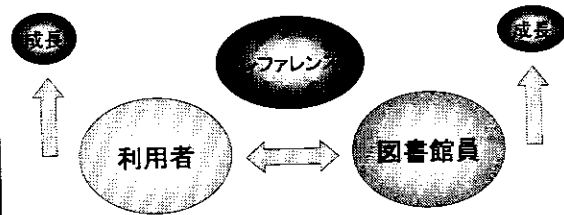


「レファレンスが人を育てる」

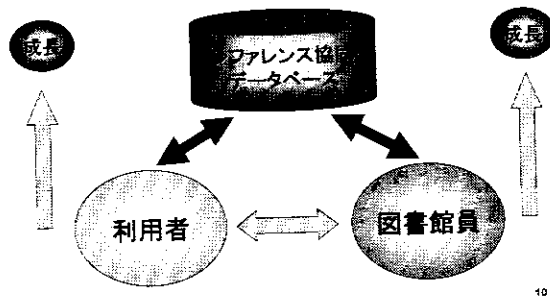
ネットワークを利用して
 ↓↑
 数多くの多様な
 レファレンスに取り組む

利用者と図書館員との循環構造

- 図書館員が利用者を支援する
- 利用者が図書館員を鍛える



レファ協が生み出す関係

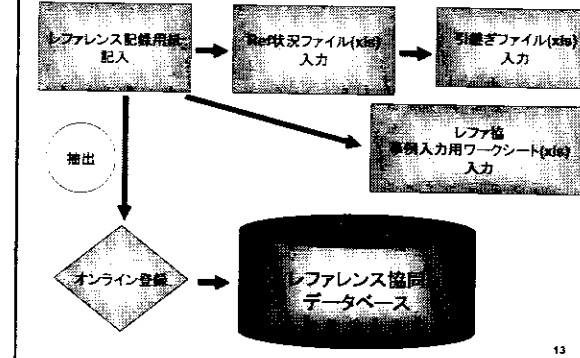


近畿大学中央図書館における
 レファレンス協同データベース
 への取り組み

これまでの歩み

- 2002年 4月 閲覧サービス部門の業務委託開始
- 2005年 1月 レファレンス協同データベース事業へ参加
- 2005年12月 レファレンス協同データベース 一般公開開始
- 2006年 4月 他館未解決レファレンスへの取り組み開始
- 2007年9月 レファレンス事例登録件数1,000件を達成
- 2008年6月 他館未解決レファレンス情報提供200件を達成
- 2009年4月 レファレンス事例登録件数2,000件を達成

レファレンスの流れ



登録事例の選択

- リポートした、リポートが予想される事例
- 難航した事例
- 情報を共有すべき事例
- 研修・教育用教材として使える事例
- 情報を求めたい事例

こんなレファレンス事例も

- ニッショク新聞を探しています。
- シンソウの本ありますか？
- エドモンド・ファラルとアルドヘルムという人物について知りたい。
- ショウイゲンジンの祭りを調べたい。
- 平安時代の住居の間取りについて知りたい。
- 室生犀星の自筆原稿「英英(ぐみ)」の掲載誌を探している。
- 仲るい法律の本 ありますか？
- はやる企業の本ありますか？
- 赤い本探しています。
- ミズノミドリの本はありますか？
- 土井晩翠事件に関する文献を探している。
- 昭和2年6月16日の大審院判例を探している。
- 「ミヤケンありますか？」

レファ協を利用したセルフラーニング

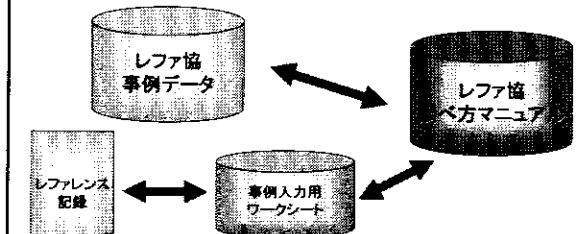
- レベル1 自館の解決済事例
- レベル2 他館の解決済事例
- レベル3 他館の未解決事例

他館未解決レファレンスへの挑戦

- 自館にはないテーマ
- 困難だが、すぐれた研修教材
- まず、プロセスを熟読する
- 発想の転換 → 「ひらめき」
- コメント機能による情報提供

調べ方マニュアルの作成

- 事例データからのテーマ抽出
- レファレンス記録からのテーマ抽出

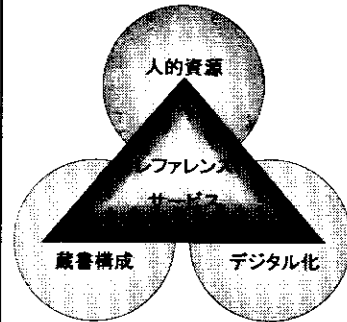


研修としての「調べ方マニュアル」作成

- レファレンス記録をまとめる
- ↓
- レファレンス記録をよく読む
- ↓
- レファ協を見る (事例データ、調べ方マニュアル)
- ↓
- テーマを考える
- ↓
- マニュアルを作成する

19

「レファレンスをコア・コンピタンスに」



「コア・コンピタンスとは他社には提供できないような利益を顧客にもたらすことのできる、企業内部に秘められた独自のスキルや技術の集合体」

ゲイリー・ハメル &
C・K・プラハラード
『コア・コンピタンス経営』
(日経ビジネス人文庫)

20

研修結果

第1分科会は「短期大学図書館の自己点検・評価内容の比較研究ーレファレンス記録を使って、職員の養成に役立てよう！ー」というテーマを設定した。このテーマについては、大変好評であった。

各館とも少人数で孤軍奮闘している様子が討論の中から伺えた。

レファレンス記録を残し、活用するところまで、日常的に行っている図書館は少なくなかったが、レファレンス協同データベース事業の講演は刺激的であった。早速、参加者数人から加入方法等の問い合わせがあった。今回のワークショップ形式は、意義ある討論となって非常に良かった。